

主に指導する教科・領域 図画工作

実 態	目 標	
工作は嫌いではないが、はさみを使って線に沿って切ることや、きれいにセロハンテープやのりではることはまだ難しい。自分の作りたいものを具体的なイメージとして相手に伝えたり、絵や文字で表現したりすることが難しい。モデルを提示して、「作りたいもの」をイメージし、具体化していく方法を取ることが多い。	長 期	示されたペーパークラフトを製作することができる。
	短 期	決められた位置にきれいにのりを使って紙をはることができる。
	手 だ て	
<ul style="list-style-type: none"> ・紙をはる位置に赤のペンで印を付け、「赤色が見えなくなるようにはりましょう」と声を掛ける。 ・「のりをつける」→「はる」の作業を分かりやすく示し、一つ一つの作業を明確にする。 		

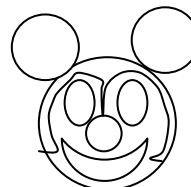
< 実 践 事 例 > 単元「夢のボールをつくろう」(児童J)

< テーマを決めよう >

- ① 教師が厚紙でハンドボール程の大きさの型紙を作った。
そして、それをJに示し、どんなボールにするか問い掛けた。
Jは、どうすればよいのかとても困った様子で、黙っていたので、Jが普段から関心のあるものの中から、ボールの形で、表現できそうなものを幾つか示してみた。Jは、教師が示した中から「ミッキーマウス」を選んだ。
- ② ミッキーマウスのボールを作るための設計イメージを教師がかき、Jに見せながら、これからの製作手順を伝えた。



< 厚紙で作った型紙 >



< 完成予想図 >

< 型を作ろう >

- ③ 製作活動の一部が、作業として明確になるように設定した。
まず、水のをりを器に入れ、はけを用意した。名刺大に新聞紙を切り、Jの前に10枚並べた。黒板には、絵を使って作業手順と注意事項を示した。
- ④ Jは、はけにのりをつけ、新聞紙に塗った。視線は手元にあるが、はけを大ざっぱに動かしただけで終わってしまったため、のりは新聞紙の中ほどに少しいただけであった。しかし、Jは、気に留める様子もなく型紙にはった。Jは、のりの付き方や「丁寧にはる」という点をあまり意識して取り組んでいないように思われたため、一度Jの手を止め、Jがはった新聞紙の様子を見せた。そこでどこが不備なのかを伝え、教師が正しいのりの塗り方について手本を示した。Jののりづけに不備があったときは、教師がのりの付いていない箇所を指で示し、Jに見て分

< 子どもに伝えたボール作りの手順 >

- ① 「ハケにのりを付けます」
- ② 「新聞紙の全面にのりを付けます」
「すみまでしっかりのりを付けましょう」
- ③ 「型紙に新聞紙をはります」
「型紙が隠れるようにはりましょう」
- ④ 「10枚終わったら先生を呼びましょう」

かるようにした。

⑤ その後、Jは、のりを塗るときに少し丁寧になった。しかし、時間がたつにつれてまた雑になってしまった。まだ自分が塗ったのりが新聞紙のどの辺りに付いているかには、あまり気が向かないようでもあった。そのため、手順の報告の場面では、不十分なところを指摘し、教師と一緒にやり直しをした。

⑥ 新聞紙をはる位置もJはあまり気に留めないため、同じ位置に重ねるようにはってしまった。そこで、新聞紙をはった方がよい位置に赤ペンで印を付け、「この赤が見えなくなるようにはりましょう」と言葉を掛けた。この赤の印は、Jにとってよい目安となったようで、その後は、赤を隠すように新聞紙をはることができた。こうして型が出来上がった。



<夢のボールを仕上げよう>

⑦ 色が塗りやすいように、白い紙を新聞紙のときと同じように型にはった。Jは、新聞紙をはるときと同じように、「のりを全面に塗ること」、「型にある赤の印を隠すようにはること」を注意しながら取り組んだ。

⑧ 次に、絵の具で黒色をボールの全面に塗った。



⑨ 最後に、教師が作ったミッキーマウスの耳、鼻、目のパーツをのりとテープで付けて完成した。Jは、出来上がったミッキーマウスのボールを見ると、自分のこれまでの取組が何であったか具体的に理解できたようで、うれしそうにボールを手にしていた。

評 価	今後の課題
<p>作品のイメージを何もないとこから思い浮かべるのは難しいようであった。やはり、幾つかの例や選択肢は必要であった。もともと作業の不器用さはあるが、手順や留意事項をまとめ、焦点化して伝えると、繰り返しの取組の中で成果は上がるように感じた。「のりを全面に塗ること」と「均一に紙をはること」への手だては成果があった。手順の構造化と視覚的な支援が、Jにとっては分かりやすかった。</p>	<p>手順や方法の理解が、そのまま作業の正確さや表現の工夫にはならない。作業の正確さは、本人の作業の傾向をとらえながら支援をし、繰り返しの取組で成果が認められるだろう。表現の工夫は、幅広い豊かな生活経験をさらに積んでいくことで、その基礎ができるように思う。「のりを塗ること」や「紙をはること」「はさみで切る」など、作業内容を細分化し、一つ一つ課題を明確にして取り組んでいきたい。</p>